

## 2026年度 通常総会議事録

表記の総会が、2026年5月14日（木）18時05分より松江エルサでの対面とオンライン（Zoom）のハイブリッドにて、南美穂子 会長を議長として開催された。出席者48名（内訳：現地28名、オンライン20名）に委任状により表決権を委任した者220名（議長委任219名、指名委任1名）を加え出席者は268名であることから、出席者が2026年3月31日の正会員数と名誉会員数の計394名の10分の1以上となり、会則第15条により総会は成立した。以下の事項が報告・承認された。

### I. 応用統計学会 2025年度 事業報告（2025.4.1～2026.3.31）

#### 1. 概況

2025年度は、南美穂子 会長・田畑耕治 副会長と16名の理事、および栗木哲、富澤貞男の両監事の体制で活動した。

財務状況は黒字であった。

2025年度中の会員の入会、退会状況は、入会者数41名（内訳：正会員25名、学生会員16名）、退会者数29名（内訳：正会員23名、学生会員6名）であった。また、学生会員から正会員への変更は4名、正会員からシニア会員への変更は2名、正会員から名誉会員への変更は1名、除籍7名（内訳：正会員7名）であった。

この結果、会員数は2025年度末現在で428名である。内訳は正会員380名、学生会員31名、シニア会員3名、名誉会員14名である。また、賛助会員4社、機関・団体購読は31件である。

正会員、学生会員、シニア会員、名誉会員を足した会員数の推移は次のとおりであり、会員増への方策の検討が必要である。

	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度末	2025年度末
会員数	432名	437名	422名	432名	423名	423名	428名

#### 2. 総会の開催

2025年5月17日（土）18時00分より富山国際会議場での対面とオンライン（Zoom）のハイブリッドにて、南美穂子 会長を議長として開催された。出席者26名（内訳：現地21名、オンライン5名）に委任状により表決権を委任した者89名（議長委任89名）を加え出席者は115名であることから、出席者が2025年3月31日（月）の正会員数384名の10分の1以上となり、会則第15条により総会は成立した。

#### 3. 評議員会

定例評議員会は2025年5月12日（月）17時00分よりオンライン会議（Zoom）にて開催された。出席者21名に委任状により表決権を委任した者11名を加え出席者は32名となった。評議員の現在数は33名であることから、出席者が過半数を超え、会則第24条により評議員会は成立した。瀬尾隆 氏を議長に選出し、総会に付議する事項等の審議と報告等が行われた。

2025年11月20日（木）には19時00分よりオンライン会議（Zoom）にて臨時評議員会が開催された。出席者21名に委任状により表決権を委任した者9名を加え出席者は30名となり、出席者が過半数を超え、会則第24条により評議員会は成立した。富澤貞男 氏を議長と

して、評議員の選出に関する細則の改定の審議が行われ、会則第 39 条に基づき、細則第 11 条の改訂が承認された。

#### 4. 理事会

対面と Zoom のハイブリッドによる理事会を 9 回（2025 年 4 月、6 月、7 月、9 月、10 月、12 月、2026 年 1 月、2 月、3 月）開催し、学会の運営に関する事項、会員の入退会に関する事項、学会等の後援や協賛に関する事項について審議した。

#### 5. 機関誌編集

「応用統計学」Vol.54 の No.1 と No.2 の 2 冊を発行した。掲載原稿は、Vol.54 の No.1 では 6 編（原著論文 1 編、総合報告 1 編、事例研究 1 編、フォーラム 3 編）、Vol.54 の No.2 では 5 編（原著論文 1 編、総合報告 1 編、事例研究 2 編、資料 1 編）である。総ページ数の推移は次のとおりである。

巻	47	48	49	50	51	52	53	54	平均
総ページ数	128	104	162	155	137	115	141	240	147.8
論文数*	5	5	11	8	8	7	8	11	7.9

\*掲載された記事の数（研究論文/原著論文、総合報告、事例研究、研究ノート、フォーラム、資料、エッセイ）

#### 6. 応用統計学会論文賞の選考

「応用統計学」に掲載された論文から選考し、以下のように学会論文賞を 2025 年度年会の学会賞表彰式にて授与した。また、受賞記念講演を 2025 年 9 月の連合大会で開催された企画セッション内で実施した。

優秀論文賞：新井仁智、松井秀俊、三角俊裕、小西貞則

空間経時測定データに対する多変量関数クラスタリング, 53 (2), 59 – 76.

奨励論文賞：坂井佑輔（共著者：寺田吉彦、高橋弘毅）

重力波観測における突発性雑音の教師なし分類, 53 (1), 33 – 54.

#### 7. 年会

2025 年度年会を 2025 年 5 月 17 日（土）に富山国際会議場での対面とオンライン（Zoom）のハイブリッドで開催した。

5 月 16 日（金）に日本計量生物学会主催による「一般化ランダムフォレストの理論と因果効果推定への応用」をテーマとしたチュートリアルセミナーにおいて、中村知繁 氏（順天堂大学）による講演が行われた。参加者は延べ 332 名（応用統計学会会員：77 名、日本計量生物学会会員：255 名）であった。

年会では、一般講演 8 件、特別講演 2 件、学生セッション 10 件、ポスターセッション 10 件の発表が行われた。学生セッションの中から最優秀発表賞 1 名と優秀発表賞 2 名を選出し、ポスターセッションの中から優秀ポスター発表賞 3 名を選出した（\*が受賞対象者）。

##### ・最優秀発表賞

\*吉田悠夏・新垣隆生・黒木学（横浜国立大学）

Evaluation of “Probabilities of Causation” in Case-Control Studies: Identification and Estimation

##### ・優秀発表賞

\*楠井俊朗・長尾大道・伊藤伸一・加藤慎也・徳田智磯（東京大学）

深層学習によるスロー地震の確率微分方程式表現の獲得と現象理解の深化

- \*長谷川弘貴・岡田幸彦（筑波大学）  
非反復型のハード閾値法による低ランクテンソル推定の検討
  - ・優秀ポスター発表賞
    - \*内藤旭希・桃崎智隆・安藤宗司（東京理科大学）  
Kaplan-Meier 法と区分指数分布の補完による平均生存時間の推定：補完開始時点の検討
    - \*吉田悠夏・黒木学（横浜国立大学）  
Estimating the Interventional Mean and Variance using Transportable Linear Causal Effects
    - \*吉場稜晟・桃崎智隆・安藤宗司（東京理科大学）  
区間打ち切りを考慮したパラメトリックベイズによる生存関数の推定
- 参加者は延べ 146 名（正会員 65 名，非会員 17 名，学生 50 名，日本計量生物学会会員 14 名）であった。

参加者数の推移は次のとおりである。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
参加者数	43 名	66 名	中止	115 名	109 名	104 名	105 名	146 名

## 8. 応用統計シンポジウムの開催

応用統計シンポジウム 2025「データ同化」を 2025 年 11 月 1 日（土）に Zoom によるオンラインで開催した。参加者数は 59 名（正会員 17 名，非会員 32 名，学生 10 名）であった。講演は以下のとおりである。

中野慎也 氏（統計数理研究所）

「データ同化とその基本的なアルゴリズム」

安田勇輝 氏（海洋研究開発機構）

「深層学習による超解像を利用したデータ同化」

綿引壮真 氏（株式会社構造計画研究所）

「データ同化の産業応用：構造解析を中心に」

菊地亮太 氏（DoerResearch 株式会社 / 名古屋大学）

「デジタルツインとデータ同化による製造プロセス最適化に向けて」

なお、共催・後援団体は以下のとおりである。

共催：共立出版 株式会社

後援：一般財団法人 日本統計協会，一般社団法人 統計関連学会連合，

一般社団法人 日本品質管理学会，東京理科大学データサイエンスセンター

## 9. 応用統計学フロンティアセミナーの開催

応用統計学フロンティアセミナー 2025「AI が拓く自然科学の新時代 ～AI が解き明かす物理・地球・宇宙の真理～」を 2026 年 3 月 18 日（水）に Zoom によるオンラインで開催した。参加者数は 54 名（正会員 21 名，非会員 21 名，学生 12 名）であった。講演は以下のとおりである。

福島孝治 氏（東京大学大学院総合文化研究科）

「自然科学研究と AI の付き合い方 —統計物理学からみる生成と検証の分離—」

辻健 氏（東京大学大学院工学系研究科）

「AI による火山・地震の理解と予測：人の動きまで把握する時系列データ解析」

竹内努 氏（名古屋大学大学院理学研究科）

「データ科学が拓く宇宙物理学の新しい地平」

なお、共催・後援団体は以下のとおりである。

後援：一般財団法人 日本統計協会，一般社団法人 統計関連学会連合，  
一般社団法人 日本品質管理学会，東京理科大学データサイエンスセンター

## 10. 統計関連学会連合大会

統計関連学会連合大会を2025年9月7日（日）～11日（木）に関西大学千里山キャンパスで開催した（主催：応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会）。

参加者数は延べ1,656名（チュートリアル参加者数207名，プレイベント参加者191名，市民講演会参加者数120名，本大会参加者数1,138名）であった。本学会の企画セッションとして，応用統計学会学会賞受賞者講演（オーガナイザー：松井秀俊（滋賀大学），星野崇宏（慶應義塾大学））と，応用統計学会企画セッション「近年におけるロバスト統計の発展」（オーガナイザー：三枝祐輔（横浜市立大学），中川智之（明星大学））を行った。

大会参加者総数とチュートリアルセミナー参加者の推移は次のとおりである。

年 度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
大 会	1,448名	1,402名	1,405名	1,772名	1,666名	1,656名
チュートリアルセミナー	335名	384名	271名	326名	267名	207名

※2025年の数字は統計関連学会連合のウェブページでの報告

## 11. 関連学会等との後援・協賛・共催事業

合計6件（後援4件，協賛1件，共催1件）

2025年度に後援・協賛・共催した行事は次のとおり。

- ・ 2025年度日本計量生物学会年会（後援）
- ・ 慶應義塾大学SFC研究所 第19回データビジネス創造コンテスト（後援）
- ・ 第21回日本TRIZシンポジウム2025（協賛）
- ・ 国際ベイズ分析学会2026年世界大会（後援）
- ・ 日本学術会議公開シンポジウム（後援）
- ・ 第12回科学技術教育フォーラム（共催）

## 12. 関連学会等への協力と協調

以下の各連合組織に当学会より担当する理事又は特別任務を担当する学会員を指名し，各委員会に出席するなど協調を行った。

### (1) 一般社団法人 統計関連学会連合

理事会（副理事長：田畑耕治 副会長，理事：南美穂子 会長）

事業委員会（委員：富澤貞男 会員）

統計教育推進委員会（委員長：藤井良宣 会員）

### (2) 統計関連学会連合大会

2025年度大会

組織委員会（委員：南美穂子 会長，田畑耕治 副会長）

プログラム委員会（委員：黒木学 理事，三枝祐輔 理事）

運営委員会（委員：江頭健斗 会員）

### (3) 一般社団法人 日本計量生物学会

2025年度日本計量生物学会年会を後援，チュートリアルセミナーを共同主催

### (4) 横断型基幹科学技術研究団体連合

理事会（理事：栗木哲 会員）

2025年度 代議員（田畑耕治 副会長）

コトづくり至宝検討委員会委員（委員：富澤貞男 会員）

- (5) 統計教育連携ネットワーク  
連携学会として参加
- (6) リスク研究ネットワーク  
機関組織として参加
- (7) 統計検定（一般財団法人 統計質保証推進協会）  
協賛学会として協力
- (8) 一般社団法人 データサイエンティスト協会  
特別会員として協力

### 13. ホームページ, メーリングリスト, 学会向け会員管理サービスおよび学会公式 X の充実

ホームページを逐次更新し, 学会員への情報公開を円滑にした. また, メーリングリストによる情報公開を行った. その他にも学会向け会員管理サービスや X (旧 Twitter) を逐次更新し, 各種イベントなどに関する情報発信を行った.

### 14. 情報誌

学会員の情報交換や意見交換になる情報誌「応用統計学会 information」の No.10 と No.11 を学会ホームページ上に掲載した.

### 15. 名誉会員

2025 年度の名誉会員については, 公募の結果, 西井龍映 氏を選出した. 2026 年度の名誉会員についても, 2025 年度中に公募を行った.

その他の事業については応用統計学会のホームページをご覧ください.

# 会計監査について

- 日時：2026年4月24日（金） 13：00～15：00

- 場所：シンフォニカの会議室

（〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 3階）

- 出席者：

〈監事〉

栗木哲 先生（統計数理研究所），富澤貞男 先生（明星大学）

〈庶務（文書）理事〉

井本智明 先生（静岡県立大学）

〈会計理事〉

山本紘司 先生（横浜市立大学），岩本大輝 先生（横浜国立大学）

〈応用統計学会事務局〉

會田雅人 様

## Ⅱ. 2025年度会計報告

応用統計学会会則に基づき、2025年4月1日より2026年3月31日までの会計経理を報告する。

### 1. 収入の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
<b>1. 会費収入</b>	<b>2,085,000</b>	<b>1,955,000</b>	<b>130,000</b>
(1) 正会員	1,620,000	1,785,000	△ 165,000
(2) 名誉会員	5,000	10,000	△ 5,000
(3) 学生会員	77,500	57,500	20,000
(4) 賛助会員	380,000	100,000	280,000
(5) シニア会員	2,500	2,500	0
<b>2. 雑誌売上収入</b>	<b>150,000</b>	<b>180,000</b>	<b>△ 30,000</b>
<b>3. 広告料</b>	<b>30,000</b>	<b>60,000</b>	<b>△ 30,000</b>
<b>4. 掲載料</b>	<b>110,000</b>	<b>240,000</b>	<b>△ 130,000</b>
<b>5. 年会等関係収入</b>	<b>1,359,767</b>	<b>1,400,000</b>	<b>△ 40,233</b>
(1) 年会収入	919,967	550,000	369,967
(2) チュートリアル収入			—
(3) フロントシアセミナー収入	2,000	250,000	△ 248,000
(4) シンポジウム収入	437,800	600,000	△ 162,200
<b>6. 雑収入(著作権料・利息等)</b>	<b>62,126</b>	<b>100,000</b>	<b>△ 37,874</b>
<b>当期収入合計</b>	<b>3,796,893</b>	<b>3,935,000</b>	<b>△ 138,107</b>
<b>前期繰越金</b>	<b>5,253,546</b>	<b>5,253,546</b>	<b>0</b>
<b>収入合計</b>	<b>9,050,439</b>	<b>9,188,546</b>	<b>△ 138,107</b>

## 2. 支出の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
<b>1. 機関誌関係費</b>	<b>795,861</b>	<b>1,250,000</b>	<b>△ 454,139</b>
(1)印刷費	695,200	1,000,000	△ 304,800
(2)校正費	39,600	150,000	△ 110,400
(3)通信・発送費	61,061	100,000	△ 38,939
<b>2. 年会等関係費</b>	<b>719,180</b>	<b>1,020,000</b>	<b>△ 300,820</b>
(1)年会支出	640,480	700,000	△ 59,520
(2)チュートリアル支出	0	50,000	△ 50,000
(3)フロンティアセミナー支出	0	100,000	△ 100,000
(4)シンポジウム支出	78,700	170,000	△ 91,300
<b>3. 管理費</b>	<b>1,040,889</b>	<b>1,370,000</b>	<b>△ 329,111</b>
(1)事務委託費	750,000	750,000	0
(2)消耗品費	1,232	100,000	△ 98,768
(3)会議費	9,396	60,000	△ 50,604
(4)雑費	144,697	260,000	△ 115,303
(5)事務合理化費	8,800	20,000	△ 11,200
(6)選挙費	126,764	180,000	△ 53,236
<b>4. 役員旅費補助</b>	<b>40,740</b>	<b>100,000</b>	<b>△ 59,260</b>
<b>5. 関連学会協調事業費</b>	<b>70,000</b>	<b>70,000</b>	<b>0</b>
(1)関連学会年会費	20,000	20,000	0
(2)横幹連合年会費	50,000	50,000	0
<b>6. 学会賞</b>	<b>111,610</b>	<b>70,000</b>	<b>41,610</b>
<b>7. 謝金</b>	<b>200,000</b>	<b>200,000</b>	<b>0</b>
<b>8. 「学会ホームページ」改修費</b>	<b>0</b>	<b>300,000</b>	<b>△ 300,000</b>
当期支出合計	2,978,280	4,380,000	△ 1,401,720
【参考】当期収支差額	818,613	▲ 445,000	1,263,613
次年度繰越金	6,072,159	4,808,546	1,263,613
支出合計	9,050,439	9,188,546	△ 138,107

### 所持現金の内訳

項目	2025年3月31日現在	2026年3月31日現在
銀行預金	1,237,862	1,754,801
郵便振替	4,015,684	4,317,358
現金	0	0
合計	5,253,546	6,072,159

### 会計監査報告書

応用統計学会 殿

応用統計学会会則に基づき、2025年4月1日より2026年3月31日までの会計経理を監査した結果、会計報告のとおり相違ないことを認めます。

2026年4月24日

監事

富澤 貞男 (印)  
栗木 哲 (印)

### Ⅲ. 応用統計学会 2026 年度 事業計画 (2026. 4. 1~2027. 3. 31)

#### 1. 機関誌の発行

「応用統計学」Vol.55 の No.1 と No.2 を発行する。

#### 2. 情報誌の発行

「応用統計学会 information」No.12 と No.13 を発行し、ホームページに掲載する。

#### 3. 応用統計学会論文賞等の授与

「応用統計学」に掲載された論文の中から優秀な論文に学会賞（優秀論文賞，奨励論文賞）を授与する。また年会の学生セッション（口頭発表）の中から最優秀発表賞と優秀発表賞，ポスターセッションの中から優秀ポスター発表賞を授与する。優秀論文賞と奨励論文賞の各受賞者は統計関連学会連合大会における企画セッションで講演を行う。

#### 4. 年会の開催

2026 年 5 月 14 日（木）に松江テルサでの対面とオンライン（Zoom）のハイブリッド開催の予定である。また，5 月 15 日（金）にはチュートリアルを開催予定である。なお，2027 年度年会の開催場所の選定は日本計量生物学会が担当する予定である。

#### 5. 応用統計シンポジウム等の開催

2026 年度のシンポジウム等のテーマ，時期および開催場所については検討中である。

#### 6. 応用統計学フロンティアセミナーの開催

2026 年度のフロンティアセミナーのテーマ，時期および開催場所については検討中である。

#### 7. 統計関連学会連合大会での企画セッション

2026 年度統計関連学会連合大会（応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会が主催）が 2026 年 9 月 6 日（日）～10 日（木）に横浜市立大学金沢八景キャンパスで開催される予定である。企画セッションとして当学会は、

- 「選択的推論の最近の展開」（オーガナイザー：川野秀一（九州大学），長尾大道（東京大学））
- 応用統計学会学会賞受賞者講演（オーガナイザー：松井秀俊（滋賀大学），星野崇宏（慶應義塾大学））

を企画運営する。

#### 8. 研究集会

必要に応じてその他の研究集会を開催・支援する。

#### 9. 学会員への情報公開

ウェブページやメーリングリスト，また学会向け会員管理サービスを活用して，学会員への情報公開を有効かつ円滑に行う。

## 10. 広報活動

会員募集のための広報活動を、X や連合大会（ブースの設置）など適切な媒体を使って行う。

## 11. 学会ホームページ

更なる機能向上を目指し、学会のホームページを更新する予定である。

## 12. 関係学会等との協調

以下の団体への加盟を継続し協力すると共に、その他関係学会との協調を促進する。

- (1) 一般社団法人 統計関連学会連合
- (2) 一般社団法人 日本計量生物学会
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）
- (4) 統計教育連携ネットワーク
- (5) リスク研究ネットワーク
- (6) 統計検定（一般財団法人 統計質保証推進協会）
- (7) 一般社団法人 データサイエンティスト協会

## 13. 名誉会員

名誉会員の公募と選考を行う。

## 14. 理事会、評議員会、総会の開催

評議員会は2026年5月8日（金）にオンライン（Zoom）開催する。総会は年会終了後に開催し、年会をハイブリッド開催とするため、総会もハイブリッドでの開催とする。

また理事会はハイブリッドやオンライン（Zoom）、メール等によって必要に応じて開催する。

以上

## IV. 2026年度予算案

### 1. 収入の部

勘定科目	2024年度予算	2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	2026年度予算
<b>1. 会費収入</b>	<b>2,025,000</b>	<b>1,422,500</b>	<b>1,955,000</b>	<b>2,085,000</b>	<b>2,240,000</b>
(1)正会員	1,845,000	1,275,000	1,785,000	1,620,000	1,770,000
(2)名誉会員	10,000	5,000	10,000	5,000	10,000
(3)学生会員	47,500	42,500	57,500	77,500	72,500
(4)賛助会員	120,000	100,000	100,000	380,000	380,000
(5)シニア会員	2,500	0	2,500	2,500	7,500
<b>2. 雑誌売上収入</b>	<b>180,000</b>	<b>213,000</b>	<b>180,000</b>	<b>150,000</b>	<b>210,000</b>
<b>3. 広告料</b>	<b>60,000</b>	<b>30,000</b>	<b>60,000</b>	<b>30,000</b>	<b>30,000</b>
<b>4. 掲載料</b>	<b>250,000</b>	<b>10,000</b>	<b>240,000</b>	<b>110,000</b>	<b>395,000</b>
<b>5. 年会等関係収入</b>	<b>1,430,000</b>	<b>1,788,008</b>	<b>1,400,000</b>	<b>1,359,767</b>	<b>1,990,000</b>
(1)年会収入	360,000	894,608	400,000	919,967	600,000
(2)チュートリアル収入	540,000		150,000		500,000
(3)フロンティアセミナー収入	0	247,000	250,000	2,000	340,000
(4)シンポジウム等収入	530,000	646,400	600,000	437,800	550,000
<b>6. 雑収入(著作権料・利息等)</b>	<b>100,000</b>	<b>63,766</b>	<b>100,000</b>	<b>62,126</b>	<b>60,000</b>
当期収入合計	4,045,000	3,527,274	3,935,000	3,796,893	4,925,000
前期繰越金	5,806,056	5,806,056	5,253,546	5,253,546	6,072,159
収入合計	9,851,056	9,333,330	9,188,546	9,050,439	10,997,159

- ・1. 会費収入 … 個人会員の会費納入率を過去の実績に基づき93%として以下のように算出
  - (1)正会員 … 354名(≒380名×0.93)×5,000円=1,770,000円
  - (2)名誉会員 … 4名×2,500円=10,000円(原則、会費は無料であるが、発送希望者約4名分は会費が必要。)
  - (3)学生会員 … 29名(≒31名×0.93)×2,500円=72,500円
  - (4)賛助会員 … 4社(19口)×20,000円=380,000円
  - (5)シニア会員 … 3名×2,500円=7,500円
- ・2. 雑誌売上収入 … Vol.54, No.2の未反映分(30,000円)と今年度の2号分(Vol.55, No.1, No.2) 30件×6,000円=180,000円の合計として算出
- ・3. 広告料 … 2号分(Vol.55, No.1, No.2)を発売予定とし、No.1のみの広告として30,000円で算出
- ・4. 掲載料 … 2号分(Vol.55, No.1, No.2)[120,000円×2]+Vol.54, No.2分(155,000円)で算出
- ・5. 年会等関係収入
  - (1)年会収入 … 2025年度実績および予算案作成時点での参加登録数から算出
  - (2)チュートリアル収入 … 2024年度(応用統計学会主催)の実績に基づき算出
  - (3)フロンティアセミナー収入 … 2024年度および2025年度フロンティアセミナーの実績(2025年度分は決算ではなく実績14万円)の平均に基づき200,000円で算出。なお、2025年度収入として未計上の140,000円を合算
  - (4)シンポジウム等収入 … 過去2年間の実績に基づき算出
- ・6. 雑収入 … 過去2年間の実績に基づき算出

2. 支出の部

勘定科目	2024年度予算	2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	2026年度予算
<b>1. 機関誌関係費</b>	<b>1,640,000</b>	<b>1,222,288</b>	<b>1,250,000</b>	<b>795,861</b>	<b>1,727,500</b>
(1)印刷費	1,200,000	988,900	1,000,000	695,200	1,300,000
(2)校正費	340,000	136,800	150,000	39,600	277,500
(3)通信・発送費	100,000	96,588	100,000	61,061	150,000
<b>2. 年会等関係費</b>	<b>1,320,000</b>	<b>1,333,004</b>	<b>1,020,000</b>	<b>719,180</b>	<b>1,270,000</b>
(1)年会支出	600,000	787,181	700,000	640,480	700,000
(2)チュートリアル支出	450,000	329,025	50,000	0	350,000
(3)フロンティアセミナー支出	100,000	46,128	100,000	0	100,000
(4)シンポジウム等支出	170,000	170,670	170,000	78,700	120,000
<b>3. 管理費</b>	<b>1,087,000</b>	<b>1,085,976</b>	<b>1,370,000</b>	<b>1,040,889</b>	<b>1,190,000</b>
(1)事務委託費	750,000	750,000	750,000	750,000	750,000
(2)消耗品費	90,000	93,327	100,000	1,232	100,000
(3)会議費	60,000	67,655	60,000	9,396	100,000
(4)雑費	160,000	145,358	260,000	144,697	210,000
(5)事務合理化費	17,000	20,900	20,000	8,800	20,000
(6)選挙費	10,000	8,736	180,000	126,764	10,000
<b>4. 役員旅費補助</b>	<b>100,000</b>	<b>63,060</b>	<b>100,000</b>	<b>40,740</b>	<b>100,000</b>
<b>5. 関連学会協調事業費</b>	<b>70,000</b>	<b>70,000</b>	<b>70,000</b>	<b>70,000</b>	<b>70,000</b>
(1)統計関連学会連合年会費	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
(2)横幹連合年会費	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
<b>6. 学会賞</b>	<b>60,000</b>	<b>70,816</b>	<b>70,000</b>	<b>111,610</b>	<b>100,000</b>
<b>7. 謝金</b>	<b>100,000</b>	<b>234,640</b>	<b>200,000</b>	<b>200,000</b>	<b>200,000</b>
<b>8. 「学会ホームページ」改修費</b>	<b>500,000</b>	<b>0</b>	<b>300,000</b>	<b>0</b>	<b>300,000</b>
小計	4,877,000	4,079,784	4,380,000	2,978,280	4,957,500
<b>9. 予備費</b>	<b>4,974,056</b>	<b>5,253,546</b>	<b>4,808,546</b>	<b>6,072,159</b>	<b>6,039,659</b>
当期支出合計	9,851,056	9,333,330	9,188,546	9,050,439	10,997,159

- ・1. 機関誌関係費 … 3号分 (Vol.54, No.2, Vol.55, No.1, No.2)として以下のように算出 (2025年度の未執行分を繰越し)
  - (1)印刷費 … 過去2年間の実績とVol.54, No.2分の発刊を考慮し算出
  - (2)校正費 … Vol.54, No.2 [27,500円]と2号分 (Vol.55, No.1, No.2)の100,000円およびJ-STAGEデータ作成費150,000円
  - (3)通信・発送費 … 過去2年間の実績とVol.54, No.2分の発刊を考慮し算出
- ・2. 年会等関係費
  - (1)年会支出 … 過去2年間の実績に基づき算出
  - (2)チュートリアル支出 … 2024年度 (応用統計学会主催)の実績に基づき算出
  - (3)フロンティアセミナー支出 … 過去2年間の予算に基づき算出 (開催形態未定のため)
  - (4)シンポジウム等支出 … 過去2年間の実績に基づき算出
- ・3. 管理費 … 基本的に過去2年間の予算に基づき算出
  - (3)会議費 … 2024年度実績とweb会議システム利用料(40,000円)追加に基づき算出
  - (6)選挙費 … 選挙が行われない2024年度実績に基づき算出
- ・4. 役員旅費補助 … 過去2年間の実績に基づき算出
- ・5. 関連学会協調事業費 … 統計関連学会連合年会費20,000円と横断型基幹科学技術研究団体連合年会費50,000円で算出
- ・6. 学会賞 … 過去2年間の実績に基づき算出. 優秀論文賞(30,000円), 奨励論文賞(10,000円), 名誉会員証, 賞状, 証書フォルダ等
- ・7. 謝金 … 過去2年間の実績に基づき算出. 各イベントでの講師謝金
- ・8. 「学会ホームページ」改修費 … HP改修が必要になった際の予算として2025年度予算に基づき算出

## V. 学会賞の報告

第1次選考, 第2次選考の結果, 以下の論文が選出された.

優秀論文賞:

Vol. 53, No. 1, 1–14. (2024)

「ガウス過程の遺伝的関連解析への応用」

熊坂 夏彦

奨励論文賞:

Vol. 53, No. 2, 77–92. (2024)

「マーク付きHawkes過程を用いた顧客購買行動の同時モデリング」

西尾 和生

## VI. 名誉会員の推挙

中西 寛子 氏

推薦理由：

中西寛子氏は、応用統計学会副会長1期（2年）、庶務理事5期（10年）、統計関連学会連携・教育普及担当を含む無任所理事3期（6年）、監事1期（2年）と長きに渡って応用統計学会の運営に携わり、加えて、統計関連学会連合大会事務局長も務め、学会運営に大なる貢献をなされた。中西氏は多変量解析、特に判別分析を専門とし、応用統計学会を含む統計関連学会で研究発表を行うとともに、初中等から大学・大学教員に至る統計教育の推進にも特筆すべき貢献があった。成蹊大学経済学部で長年大学統計教育にあたり、統計教育の充実を図るとともに、統計検定センター長、運営委員会委員長、副委員長等を現在に至るまで歴任して検定事業の運営を統括、統計数理研究所大学統計教員育成センター特任教授・研修部長として、統計エキスパート人材育成事業を5年間推進、約40名の大学統計教員育成実現の要の役割を果たした。

このような応用統計学会、わが国統計教育に対する多大な貢献により応用統計学会名誉会員に推挙する。

## Ⅶ. 会長・副会長・評議員選挙結果報告

投票締切日：2026年3月23日

開票日：2026年3月27日

### 1. 2026-2027年度の会長・副会長選挙結果

会長	井元 清哉
副会長	二宮 嘉行

### 2. 評議員選挙結果（31名）

#### 地区代表評議員

北日本・北関東	荒木 由布子,	内藤 貫太
南関東	南 美穂子,	田畑 耕治
東海近畿	青木 敏,	佐藤 健一
西日本	川野 秀一,	富田 哲治

#### それ以外の評議員

會田 雅人, 安藤 宗司, 大久保 豪人, 大西 俊郎,  
大森 崇, 川崎 玉恵, 栗木 哲, 黒木 学,  
三枝 祐輔, 酒折 文武, 篠田 覚, 瀬尾 隆,  
寒水 孝司, 椿 広計, 永田 靖, 長塚 豪己,  
藤澤 洋徳, 星野 崇宏, 松浦 峻, 松浦 正明,  
水田 正弘, 山本 紘司, 渡辺 美智子

以上

## VIII. 新理事の選出（2026-2027年度）

役職	氏名	所属
会長	井元清哉	東京大学
副会長	二宮嘉行	統計数理研究所
庶務（会議・文書・総会）理事	姫野哲人	滋賀大学
庶務（情報・広報）理事	中川智之	明星大学
庶務（組織）理事	川崎玉恵	青山学院大学
会計理事	岩本大輝	横浜国立大学
会計理事	田畑耕治	東京理科大学
編集理事	松井秀俊	滋賀大学
編集理事	三角俊裕	国立がん研究センター
企画理事	植木優夫	長崎大学
企画理事	長尾大道	東京大学
企画理事	山口類	愛知県がんセンター
企画理事	川野秀一	九州大学
無任所	瀬尾隆	東京理科大学
無任所	樋口知之	中央大学
無任所	藤澤洋徳	統計数理研究所
無任所	永島勝利	総務省統計局

以上

## IX. 新監事の選出（2026-2027年度）

役職	氏名	所属
監事	栗木哲	統計数理研究所
監事	南美穂子	日本女子大学

以上